

ボローニャにて—その7—

◆Capodanno(カポダンノ)というと日本では元旦と訳されているが、こちらでは大晦日から元旦にかけてが capodanno らしい。要は旧年と新年の移り変わる時を意味しているようだ。だから大晦日でも capodanno という人もいる。いつもは寝正月なのだが、ボローニャでの capodanno は生涯最初で最後だろうと思い、思い切って出かけてみた。毎年 Piazza Maggiore に紙でできた大きな人形が設置され、それが旧年から新年にかけて炎で燃やされ、旧年の変なことや嫌なことを焼却するという意味をもつらしい。教会に懺悔室があるとはいえ、やはりこのような行事が必要なようだ。



panino などの出店（準備中）



爆竹屋さん

しかし今年は Piazza Maggiore には、大きなステージが設置され、音楽などを演奏しているが、この大人形はない。もともと混雑しているところは好きではないので、少し落ち着いた S.Stefano 広場にいった。と、そこには得体の知れない変な人形と stella(星)が設置してある。これが燃やされる人形かと思ってカウントダウンを聞いていたら、0(ゼロ)になる前に点火、旧年から新年にかけて確かに燃やされたのだ。ついでに日本でいう花火(お店で売っているような小さな花火)も一緒に点火され、そのするうちにこの得体のしれないものが完全償却になるまで燃やされたのである。約 30 分くらいかかったであろうか。でもそれを見ながら、自分の昨年の様々なことを考えたり整理したり、諦めたり再考したり、とにかく見学に来てよかった。帰国したらまた寝正月になるのだろうか。



コウモリだと思われる人形



カウントダウンと共に点火



すべて燃え尽きるまで、このままである。周りでは音楽に合わせて踊ったりしている。シャンパンで乾杯をする人たちも多数いた。

◆眠い目をこすって起きたら 1 月 2 日である。柔道場で鏡開式だ。どのようにするのかと思って、興味だけで参加してみた。まず Pino 師範がイタリア語で書かれた嘉納治五郎に関する本の中から、この式の方法が記載してある部分を読み、その通りにしようとしている。

でも日本酒も何もない。ようは白ワインをワイングラスに注いで回し飲みをして、嘉納治五郎の写真の下に備えて終了。柔道の初稽古が始まったが、私は用があると失礼してしまった。この歳になって、柔道そのものを習得する気はない。健康のためにしているのだから。



白ワインとワイングラスで鏡開き。

◆1 月 3 日、4 日と二日連続で柔術を教えてほしいと頼まれる。天神真楊流がよいという。なぜかと思って考えていたら、来夏に Forli で柔術等の講習を頼まれており、そのプログラムの中に天神真楊流の初段が入っているのだ。ここの師範はどうも、人よりも先取りしてやってしまいたがる癖がある。でも師範の立場で、弟子よりも覚えが悪いとなると示しがつからないからなのかもしれない。私にとっては苦も無いことなので引き受けた。

さて 4 日の稽古後、自宅近くの bar に行ったら何か飲もうと考えていると、一人の男性が私にビールをご馳走してくれた。初対面なのにどうしてか聞くと、これがイタリア人の方式だ、などと言ってニコニコしている。お店の commessa(女性店員)に聞くと、いいんじゃない、問題ないわよ、とのこと。そこで grazie mille といって頂き、帰り際にお礼の挨拶をすると、立ち話になってしまった。その方何やら collezionista(収集家)だという。私が日本人と分かると、(女性の)着物の帯や火鉢なども持っているという。そして話は春画に及んだ。私が知り合いの日本人女性

の歴史研究家などを紹介しようかと聞くと、**Non mi interessa una donna**(女性には興味がない)というではないか。最初は、研究ではなく単なる物の収集だけに興味があるのかと思って、江戸文字なども読めると面白いなどといったが、回答は同じで、女性に興味はないという。ついでに**chiaramente?**(はっきりわかるだろ?)とも。確かに文法的にははっきりと理解できるが……彼が屋外にたばこを吸いに行ったとき、フト気付いたのが、そうなのだ、「女性」には興味がないのだ。つまり法律学という反対解釈を採ると、「女性でなければ」興味があることになる。女性は人間の二つの性のうちの一方を指示する用語なので、反対解釈上残っているのはもう一方の性…男性…である。なんで私が!!!と背筋に寒気を感じ、周りを見たら、何やら知る人ぞ知る人物らしい。みんな興味津々で見ている。もちろん「笑顔」で。**Commessa** に云った、**Devo scappare subito!!**(すぐに逃げないと!!)。店の外に出ると、そこに彼が笑顔で立っている。必死に笑顔を作り、これから職場に連絡を取らないといけなくて…ここで失礼しますね。今日はごちそうさまでした。と言い繕って自宅に舞い戻った。ホッとして一つ気づいた。彼がその方面の人であるらしいと気付く前に、どういう成行きか、互いの名前と携帯電話番号を互いに交換してしまったのだ。もちろん私のはイタリアの番号だけだが。今は 3 月末まで何事も無いように祈っている。何という浅はかなことをしてしまったのだろう。自分の無防備さに腹が立つと共に、情けなくもあったが、**bar** で友達を作るといふ、多くの人が語っている事項を何の条件も付けずに、それでよいと思っていたのだ。生まれて初めてとは言え、新年始まったばかりなのに……。

◆ついでに、いつも **pane** や乾物類を入れている棚の扉の取っ手が抜け落ちてしまい、仕方がないので、瞬間接着剤を使用して付けることにした。



瞬間接着剤は、以前、シャワーのひび割れを直すのに購入したものがまだ残っている。そこで早速使用しようと思いキャップを開けようとしたが、開かない。そうなのだ、一度使うとキャップ自体も接着されてしまうのだ。ビクともしない。どうしようかと悩んだ挙句、別の場所に穴をあけて、そこから接着剤を絞り出した。考えてみればこの穴も直ぐに塞がるのだろう。故に問題なし。でも元々量の少ないこの手の接着剤だが、できれば一回ごとの使い切り形式がほしいものだ。コンタクトレンズでさえ使い捨てがあると云うのに、何とかならないものだろうか。

午後、**parrucchiere**(床屋)に行った。前回行った所だ。前も不思議に思っていたのだが、このお店は、おじいさんと云っては失礼にあたるかもしれないようなおじさんが一人で切り盛りしている。にも拘わらず、散髪・シャンプーなどの営業用の椅子が 5 脚も並んでいる。私の前に一人男性が散髪してもらっていたが、結局は彼と同じ椅子に座らされた。つまり一つの椅子しか使用していないのである。昔はたくさんの人が働いていたのであろうか。散髪(整髪)とシャンプーで 30€。私が 50€出すと、偽札かどうか、透かしを見たりと調べている。おじさん曰く、偽札が多く出回っているからね。特に 50€札、20€札、10€札そして 5€札なんかだよ。というのを聞いて

て、高額紙幣以外、全部ではないか!!ということなのだ。そういえばマクドナルドでも、紙幣検査機を使用していた。

この日は、食事の準備(といってもほとんど何もしないのだが)が面倒なので、Bass'otto に行った。でも un piatto(一品)だけ。水もペットボトルではなくコップに半分にした。合計 5.40€。ほぼ mensa(学食)なみである。本当は un piatto が 4.50€、水が 0.40€で合計 4.90€なのだが、coperto(席料)が 0.50€常に徴収されるので、この値段になるのだ。今回は、cotoletta である。



非常に大きく感じられるが、衣の中は 1 ミリ位であろうか、薄く平たくなった豚肉が入っており、日本でいうトンカツとは全く異なるものである。それでも空腹は十分に満たされた。ただ自分で胡椒や塩等々を使用して味付けをしなければならなかったが。

◆そろそろ帰国準備を考えなければならない。約一年近く過ぐすと、余計なものを買わないようにしていたつもりでも色々と溜まってきてしまう。モノは処分すればよいが、人間関係は難しい。当初の予定を完全に覆した研究所の火事のおかげで(未だ閉鎖中)、研究分野よりも柔道分野での人々と親密になってしまった。とはいってもイタリア人達である。日本人の感じ方と異なるのであろうか。先日、天神真楊流柔術の初段居捕を請われて教え始めたのだが、残り 3 ヶ月を切って、その後は二度の諸君と再会することはないだろう、ということを「一期一会」の観念を中心に書いて、配布してみた。誰一人としてその内容について口に出すものはいなかった。あまりに下手で間違いだらけのイタリア語なので、解読できなかったのかもしれない。

いまは彼らとの別れ方を考えている。下手にさよなら festa などされたくないの、3 月最後の私の稽古が終わったら、そこですべてを終了しようと思っている。稽古終了の礼をして、彼らはその後柔道の稽古をするだろうから、私はシャワーを浴びて姿を消そうと思っている。

中には skype があるから簡単に話ができると云う者もある。しかし日伊の時差は 7~8 時間。実質上、活動時間が正反対だと思っていけばよい。ということは、どちらかが無理をしなければ、skype など使えないのだ。そこまで無理をする用事も無い。などと考えると、3 月末で本当に終わるのだ。人間の付き合いの中で物理的な距離というのは決定的な役割を演じていることを痛感する。国と国との関係では地政学なのだろうけど、人と人との関係では「地生学」だ。皆に配布した文章の最後に、sayounara(addio)と記しておいた。もうその時から本当の一期一会が始まったのである。

(続)